

# 平成29年2月9日付 建設通信新聞 第12面(最終面)

## 「施工管理技士」は建設業界の必須アイテム

今、日本の社会では、企業をとりまくビジネスシーンが激変している。「大企業不倒神話」が崩れて久しいが、終身雇用制の崩壊・中途採用の定着など、人的な側面からも過去に「常識」と思われていたことが大きく変化し、同時に人物の見方も変わってきている。

これまで「どの大学、会社で、何をやってきたか」というブランドが主に問われてきたが、これからは「あなた自身が、これから何をできるか」が重要になる。

つまり、ブランドで判断されることよりも、あなただからこそできることは何か、という個人能力がダイレクトに問われる時代になっている。このような時代を乗り切るために、資格取得は重要だ。ここで、建設業界で不可欠な資格である、施工管理技士を紹介したい。

施工管理技士は、一般建設業、特定建設業の許可基準の1つである営業所ごとに置く専任の技術者および建設工事の現

場に置く主任技術者や監理技術者の有資格者として認められるなど、施工管理に携わる方には不可欠な資格だ。

国土強靱化政策や2020年の東京五輪に伴う大規模開発も手伝い、施工管理技士の需要はますます高まっており、例えば、1級土木施工管理技術検定であれば、毎年1万人前後の合格者が出ているが、資格保持者はまだまだ不足している。そのような資格を持つ人材を企業がほしがらないはずはない。

このように施工管理技士は、建設業界の中で、「不動の資格」として光を放ち続けている。

### ■今が絶好の機会

「36.7%」この数値が、何かお解りだろうか。正解は、16年度の1級土木施工管理技士の実地試験合格率だ。数字を見て、やさしいか、難しいかの捉え方はさまざまかもしれない。

ただ、過去7年で最も合格率が低かった10年度（18.5%）と比較すると約2倍

の合格率であり、近年では非常に高い数値といえる。

技術者不足が叫ばれて久しい昨今、しばらくはこの合格率で推移することが予想される。

施工管理技士はどの企業もどから手が出るほどほしい人材といっても過言で

## 自身に何ができるかが重要

はなく、建設業界に身を置き受験資格を持つ者であれば施工管理技士の資格取得に挑戦することをおすすめしたい。そして、今が試験に挑戦する絶好の機会なのだ。

そこで、このコラムでは次回より5回にわたり、施工管理技士の受験対策講習会に特化した18年、毎年1万人以上の受講生に選ばれているC I Cが合格に向けたノウハウや試験傾向など受験に役立つ情報を公開する。

学科、実地試験の合格率などの推移（1級土木の例）

試験区分	対象年度	2010年度	14年度	15年度	16年度
学科試験	受験者数	39,733	33,130	35,810	35,340
	合格者数	21,066	19,389	19,551	19,454
	合格率	53.0%	58.5%	54.6%	55.0%
実地試験	受験者数	30,864	28,010	27,547	27,846
	合格者数	5,720	11,064	10,266	10,219
	合格率	18.5%	39.5%	37.3%	36.7%

その事前準備として今回はなぜ受験において試験傾向をつかむことが重要なのかを説明する。

### ■なぜ傾向が必要

なぜ、試験傾向を知る必要があるのだろうか。その理由は2つある。1つ目は、試験傾向を研究することにより、無駄なく学習を進めることができること。もう1つは施工管理技術検定試験の出題範囲は幅広く、この範囲を漫然とくまなく勉強していたのでは、いくら時間があって



も足りないことだ。

試験傾向をつかむことで習得しなければならない重要な論点を絞り込み、効率良く学習を進めることができる。施工管理技術検定試験は勉強のポイントさえ外さなければ決して難しい試験ではない。

業務多忙で受験対策に時間的制約がある受験生が最小の努力で、最大の結果（合格）が出せるよう情報を公開していくので学習に役立ててほしい。

※2017年度1級土木施工管理技術検定試験〈申込期間〉3月31日から4月14日まで。願書は3月13日から発売。

〈試験日〉学科試験が7月2日、実地試験が10月1日。

（C I C日本建設情報センター）

施工管理技士 合格のポイント①

最大の結果を出す勉強法